

---

# アイルランドの学へタ日記

マネー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

アイルランドの学へタ日記

### 【著者名】

マネー

N9116Y

### 【あらすじ】 どうもです。

今回が初トーマーの『マネー』です。

ですが、生暖かい目で見守つて頂ければ幸いです。

## 序章（前書き）

「イルカ」など、かわいいキャラクターはオリジキャラです。  
とにかくかわいいです。  
わーせん・・・（泣）

序章

にんにちは！！！

俺はアイルラン

# W学園に通う高校1年生！

寮生活なんだけど・・・

？？？）アイル！！！

何ブツブツ

言  
文  
集  
卷  
一

よつておひでプロイセン。

（？？？）ボンジョルノ

? ? ? ) ヤツホー

? ? ? ) . . . よお

こいつ等はイタリア3兄弟妹。

(ちなみに上からイタリア、ヴァチカン、ロマーノだ。) どうからどう見てもヘタレの兄弟妹だ。

ノリトウヒツ

# チュロスの

差し入れに来たで

こいつはスペイン。  
とにかく明るくて面白い奴だ。

こいつはスベイン  
とにかく明るくて面白い奴だ。

あと料理が上手い。

まあ、今いるメンツはほんなんもんだ。

このメンツを見ると入学当時を思い出すなあ・・・

(次回に続く・・・)

## 序章（後書き）

絞め方が分からん！――！（泣）

もう続く形で締めました。

多分、続くと思うんで、次回もよろしくお願い致します（ペコリ）

## オリキヤラ設定（前書き）

オリキヤラの説明をします。

## オリキヤラ設定

オリキヤラの紹介して無かつたので、今します。

### アイルランド

年齢＝高校1年生

身長＝150.2?

体重＝39.6?

性別＝女

一人称＝俺

性格＝とにかく明るく、樂観的

### 方向音痴

負けず嫌いだが、プライドは低い

仲間の為なら

とことん情熱燃やしまくる

ヴァチカンとは親友

特技＝料理、喧嘩、大食い、逃げる

好きなもの、こと

＝シエスタ、食べること、二次元、読書、動物、歌う、運動

嫌いなもの、こと

＝勉強、不良、イギリス（兄）

### ヴァチカン

身長＝149.0?

体重＝38.0?

性別＝女

一人称＝あたし

性格＝明るく、優しい。

絶対音感をもつている

アニメ声

負けず嫌い

何か黒魔術使える

・ アイルランドとは親友  
特技 = 絵を描く、歌う、逃げる

好きなもの、こと

〃 シエスタ、歌、二次元

嫌いなもの、こと

〃 イギリス、争い事

・ と、こんな感じです。

後のキャラクターは原作と同じです  
これからもお願いします（ペニリ

## オリキャラ設定（後書き）

本番を一せこ・・・（泣）  
かつまじゆう あがですね・・・

## アイルの回想（前書き）

今回はアイルの昔の話です。

## アイルの回想

昔、俺達は人間だった。

何で『俺達』なのかつていうと、

ヴァチカンも昔は人間だったからだ。

話を戻して俺達は同じ中学校に通うごく普通の学生だった。

でもある日、俺らの人生は他の人と全く違うものになった・・・

忘れもない夏の日・・・

俺達は学校の守り神が出ると噂の場所に来ていた。

そこは普段、生徒が入れないよう鍵がかかってたドアがあった。

しかし、その日はドアが無かった。

鍵がかかっていなかつた訳ではなく、ドア自体が無かつたのだ。

俺は不思議に思つたが、そのままスルーしてしまった。

噂の場所には謎の石板があつた。

不思議に思つた俺が石板に触れた瞬間、真っ白な光が俺達を包みこ

んだのだった・・・

(次回へ続く・・・)

## アイルの回想（後書き）

あらあらですね・・・  
自分の文才の無さが・・・（泣）

## これ世界で学園へ！！（前書き）

今回はセリフが多いです。

アイルランドは「アイル）～」となつておつます。

## 世界 w 学園へ！－！－

まばゆい光が消え、目を開けると、おじいさんがいた。

（？？？） はあ・・・君達が・・・

おじいさんはいきなり二戸一戸こだした。

よく現状が分からぬ俺は、おじいさんに質問してみた。

（アイル） あなたは誰ですか？

（？？？） よくぞ聞いてくれた！－！－

（ 我は『神』じゃ！－！－

（アイル） はいいつ！－！－？

（このじいさん頭大丈夫かなあ・・・・

（神様） ワシは君達を迎えて来たのじゃ。

（ いざ来たれ！－！－

（ ヘタリアの世界へ！－！－

（俺達） はああつ！－！－？

（やつとビヴァチカンが喋った。）

今までビックリし過ぎて喋れなかつたらしい。

（ で、その神様（？）が言つには世界 w 学園の入学者数が少なすぎる  
ので、俺達に国になつて欲しい・・・・という事らしい。

（俺達はヘタリアが好きだったから、勿論こう返事した。）

俺達） いざ行こうーーー！

ヘタリアの世界へーーー！

これ世界へ学園へ！！（後書き）

一話が短くてすみません・・・

## ついに学園へ！－（前書き）

ついに「イルがヘタリアの世界へ！」  
ある人と会います！－！－！

## ついに学園へ！！！

「こ、これは何処だらう・・・。  
俺はそつと目を開けた。  
俺はベットに寝ていた。  
その時・・・。

君は今日からアイルランドだ・・・。

「という声が聞こえた。  
それで俺は今までのことを全て思い出した。  
ハツとして起き上がるひとすると激しい痛みにまた寝てしまった。  
その時・・・。

？？？）お、目が覚めたか。

ボサボサの金髪に緑碧の目・・・  
俺はこの人を知っている・・・

イギ（俺はイギリス。

お前は？俺と同じだろ？

　　アイル（俺は・・・  
　　アイル・・ランド・・・  
　　アイルランドだ。

イギ（そうか・・・

　　こんな小さい体で頑張ったんだな・・・

俺が小さい・・・?

確かに身長は低いが・・・

俺は近くにあつた鏡を見た。

確かに小さかつた。

いや、小さいというより『幼い』。

そうか・・・俺は国として生まれ直したのか。

イギ） こう訳で、お前は今田から俺の弟だ！――！

アイル） うん、分かつた！――！

お兄ちゃん！――！

イギ） なつ／＼／＼／＼

イギリスは赤くなつたと思うつどいきなり泣き出した。

アイル） お兄ちゃん？

大丈夫？

俺なんか嫌なことした？

イギ） いや・・・違うんだ・・・

イギリス・・・

アイル） え？

イギ） イギリスでいい・・・

それで十分だから・・・

アイル） うん、分かつた！――！

おー・・・じゃなかつた、イギリス！――！

俺は昔の記憶がなくなっていた・・・  
人間だったという記憶が・・・  
この事を思い出したのはもつと後のこと・・・

## ついでに学園へ---（後書き）

これからはじまりへ、ヘタリアの世界で成長していくアイルの「」になります。

## 兎との田舎ごと（龍齋）

歴史は完璧に無視します。  
ついにアイツがでてきまよ……！

## 兄との出会い

イギリスの妹になつてからしばらく経つたある日。  
イギリスが家へやって来た。

イギ（）アイル、遊びに来たぞ！――！

アイル（）イギリス！――！  
来てく'r・・・

その時、いきなり誰かに抱きつかれて、ビックリした俺は黙つてしまつた。

? ? ? (うわあ～！――！  
僕よりちつちやい！――！  
この子かい！――?  
僕の弟つて！――！

弟？ 僕は女なんだけどなあ・・・

イギ（）ああ。そいつがお前の弟だ。

アイル、コイツト「僕はアメリカ！――！君は？」  
お前、人の話をさいgo「俺はアイルランド。ようじく  
お前も聞けよ！――！

何かイギリスが怒つてたけど、アメリカはいい人みたいで良かつた

仲良く慣れたらいいなあ・・・  
！――！

## 冗談の由来 (後書き)

期末前なので勉強しなくては・・・のですがサボります。  
そして己の文才の無さに(泣)  
何からクエストがあれば、感想等お待ちしています。

# 兄との出会い2（前書き）

part2です！！！

イギリスの弟はまだいますよ！――！

## 兄との出会い②

アメリカに会つてからしばらく経つたある日、  
またイギリスが家にやつて來た。

イギ（おーい、アイルー。  
遊びに來たぞー。

アイル（イギリス！！！

また来てく・・・

またイギリスは俺の知らない子を連れていた。  
そして、また少し前と同じ現象が起きた。

? ? ? ( ) こんにちは。  
僕はカナダだよ。  
この子はクマ吉さんだよ。

クマ（誰。

カナ（カナダだよ！――！（泣）

アイル（俺はアイルランド。

よろしくカナダ！――！

クマ吉――！

クマ（クマ次郎だ。

アイル（え――？

そうなの？

じや、よろしくクマ次郎！！！

クマ) よろしくな。

イギ）アイル、カナダはお前の

兄貴なんた

アイル）ヘー・・・

確かにアメリカにそぞくり……

イギー) 反応薄すぎだろ・・・

アイル) そうかな?

そういうのはお腹空いたな

イギ（俺が作つてやらぬこともないぞ。

（イル）ほんと！？

わあーい！！！

イギリスの手料理だ！！！

力ナ）うん。

イギリスが良ければ。

イギ（ベ、別にお前等の為じや

なくて、ただ俺が料理を作りたかつただけだからな！／＼＼＼＼

（アイル）うん分かつた！！！

俺も手伝つよ——！

力ナ）僕も手伝います。

イギリスの書籍

じゃあみんなで作るか。

イル&amp;カナ）うん！！！

このあと料理はほとんど俺とカナダが作つたのだった。

兄との出来事②（後書き）

アーサーが作らなければちゃんと料理が出来上がるぞ！――  
y・アイルランド

アイル君、料理の報告あつがとう！――

次回はぜひなることやう・・・

感想等お待ちしております！――！

b

## イギリスが来たよー！ー！ー！（前書き）

イギリスが来ました！！！  
いやあ、イギリスがアイルに会つたらどうなるのかなと思って書いてみました。  
完璧なる私の想像です。

## イギリスが来たよー！！！

俺がカナダとアメリカに会つた5日後、  
またイギリスが家に來た。

イギ（）アイル！！！

遊びに來たぞ！！！

べ、別に寂しかつたとかじやないんだからな！！！

お前の為何かじやなく、俺の為なんだからな！！！

アイル）イギリス！！！

来てくれたんだ！！！

ありがとう！！！

嬉しいよ！！！

ぎゅむつ

イギ（）なつ・・・！・！・！・！・！

や、止めろよ／＼／＼

抱きつかなつて・・・／＼／＼

アイル）あ・・・ゴメンね？

だから嫌いにならないで？（（（つる

イギ）泣くなよ・・・

大丈夫だ、嫌いになんて絶対にならねえ。

アイル）ほんと？

イギ（ああ、ほんとだ。

アイル）良かつたあ！！！

・・ねえ、イギリス。

イギ（ん？ 何だ？

アイル）その妖精さん誰？

イギ）！――――！

おま・・・！――！

妖精さんが見える・・のか？

アイル）見えるよ！――！

どうかしたの？

もしかして俺、へんなこと・・・

イギ（言つてない！――！

大丈夫だから泣くなよ・・・

？？？）あーら、イギリス。

妹を泣かせちゃダメじゃない。

イギ（泣かせてねえよ！――！

・・ん？ ちょっと待てよ・・・

お前、今妹つて・・・

？？？）何言つてるの？

この子は女の子よ。

イギ（え！――？

でも一人称「俺」だし、  
短髪なのにか！？？？

？？？（）あら、それがどうしたの？

ま・ぎ・れ・も・な・い

イギ（）そり強調する「」が、なぜねえよ。――

（アイル）喧嘩はダメだよ？

? ? ? ) . . . . .

イギーどうした？

? ? ?)  
か、  
か、  
・  
・  
・

イギ）なんだよ？

? ? ) かつわいいいいいつ ! ! -

イギ) 当たり前だ。

（イル） アイルランド！！！

妖怪さんは？

？？？）私はサリー。

よひしゃべアイルちゃん！――！

（イル） よろしく！！！

その時だつた。

あの異音が聞こえたのは・・・

• • •

アイル） ん？ なんの音？

サニーキングス・アーバン・リビング

サリーの目線の先には黒いオーラを纏つたイギリスがいた。

アハル）イギリス？

どうか痛いの？

俺はイギリスの背中をさすつてやつた。

イギギ・・・

（イル）イギリス、大丈夫？

俺がずっと背中をさすり続けていると、いきなり抱きしめられた。

（アイル）イギリス？

イギ）お前は優しいな・・・

アイル（イギリス、苦しいよ。

イギ（・・ありがとう・・・

アイル（え？

イギ（何でもない・・・

その後しばらく俺はイギリスに抱きしめられていた。

## イギリスが来たよー！ー！ー！（後書き）

アイル優しい・・・  
そしてイギリスかわいそう・・・  
サリーは「アイルってイギリスの妹だし妖精さん見えるのかなあ」と思つて書きました。

イギリスが家に来たよー！！！2（前書き）

再びわたくしメの完璧なる妄想timeでいざこます。

## イギリスが家に来たよ！――2

あの後俺が分かつたのは、イギリスは寂しいと『ギギギギ・・・』という音を発するということだけだった・・・まあ、それはさて置き、しばらく3人で紅茶を飲んだり、おしゃべりしたりしていたのだけれど・・・

イギ）あ、そうだ。

アイル。

アイル）ん？

なあに、イギリス？

イギ）お前、1回俺と一緒に  
出てみないか？

アイル）出るつて何に？

イギ）世界会議にだ。

アイル）せかいかいぎ？

イギ）ああ、そうだ。

アメリカとカナダも  
連れていこうと思つてる

アイル）世界会議かあ・・・  
行つてみたい！――

アイル）イギリス？

顔が真っ赤だよ？

熱でもあるの？

ノシノシ

イギ) われ・・・・!

おでこへつけて  
熱測定のマヌロ!

熱測んのヤメロ!! //

（イル）熱はないみたいだよ・・・

さらに真っ赤になつ

さらに真っ赤になつて・・・！

イギ（お前のせいだあああつ……）

イギリスが家に来たよ！――2（後書き）

アイルが無邪氣すぎる……！

もしアイルが妹だったら、ぶつ倒れでます……。

# 世界会議だよ！－1（前書き）

ネタを忘れる前に書かねば・・・！！！  
と思って書いたら、前作投稿のすぐ後でした・・・

世界会議だよ！！！

イギリスが世界会議に連れていくてくれたのはそれから2年位後だった。

行く日をしつたいきさつは、イギリスからの電話だった。

イギ）アイル！－！

明日世界会議に行くぞ！！！

（イル）・・え・・えええええつ！！！

いきなりそんなことを言われ、今日こまで。

さすがの俺も準備があるからね！！？  
こちらの都合も考えて頂かないとなー！！？

…て訳で、来ました！！！

世界会議に！！！

アメリカもカナダももう出席してるらしい。

『成長が早くてピッケリした』といギリスが言つてた。  
そうだよね。

俺まだこんな子供なのに・・・

まあ、そうゆー訳で俺は世界会議場に足を踏み入れる事になった・・



## 世界会議だよ！――2

会議場に入るとアメリカが出迎えてくれた。

アメ) HAHAHAHAHAHAH

君達遅いじゃないか〜！！！

やあ、アイルランド。

久しぶりだね！！！

アイル) ・・・・。

俺はボーゼンとしていた。

イギリスから聞いてはいたけど

成長早すぎだろ！！！

そして・・なんとなく・・・

イギ) おい、アメリカ。

お前また太ったのか？

あああ・・・

イギリス、それは言つちや・・・

アメ) うるさいなあ〜！！！

なら俺も言わせてもらひけど、  
この前君にもらつたスコーン。  
あれスッゴく不味かつたぞ。

イギ) なつ・・・〜！！！

テメ !!!!

(汚い言葉なためモザイクとなっています。)

アイル）イギリス・・・

紳士じゃ・・・無かつた・・・の？

アメ）えつ！？

君、今まで「オイツを

紳士だと思つてたのかい！？

俺が頷くと、アメリカが俺にこれをやせこた。

アメ）君も早く独立した方がいいよ。

アイル）ううん。

俺はサリーと約束したから。

アメ）誰だい！？

サリーって。

アイル）俺の友達だよ！？

スッゴくかわいいんだよ！？

イギ）おい、なに話してんだ？

俺が口を開こうとした瞬間

アメリカが腕をつねつてきた。

痛みに後ろを向くと、

アメリカが首を振つていた。

アメ）いや、何でもないぞ

さあ、行こうか。

イギ) あ、そうだ。

おい、アメリカ。

アメ) ん、なんだい！？

イギ) そいつ、『弟』じゃねえぞ。

アメ) なんだつて！？

イギ) お、落ち着け！！！

正確には『弟』じゃなくて、  
『妹』だ。

アメ) え・・えええつ！！！

そんなに驚かないで欲しいなあ・・・  
さすがの俺も傷付くよ！？  
俺ってそんな男っぽいかな?  
まあ、髪短いしなあ・・・

アメ) まあ、いいや！！！

行こう!!

そう言うとアメリカは俺の手を取つて走り出した  
のだった・・・

世界会議だよ！――2（後書き）

ただいまイルの名前を募集中です！！！  
感想共々、お願い致します！！！

## 世界会議だよーーー！3

俺らが会議室に入ると、いきなり誰かが駆け寄ってきた。

? ? ? ) うつわあー！！！

君、スッゴく可愛いね！！！

俺とお茶しない？！！

・・・えつ？！！

これは・・俺に言つてんのかな？

俺が何か言おうと口を開こうとした瞬間・・・

? ? ? ) ヴンネ兄ちゃん！――！  
なにやつてんの！――？

? ? ? ) ヴンツ――！――

ゴメンよ――！――

バチカン、許して――！――

バチカン・・・?

この声、聞き覚えが・・・

俺は顔を上げた。

そいつは・・バチカンは・・・

俺の・・かつての親友だった・・・

バチカンも俺に気付いたらしく、ふと顔を上げた。

俺達の目があつたとき・・・

昔の記憶が・・まだ人間だつた頃の記憶が・・思い出されたのだった・・・

気が付いたら俺は泣いていた・・・  
何故だか分からぬ・・・

でも、涙が溢れて止まらなかつた。

最初に口を開いたのはバチカンだつた。

バチ）久しぶり・・だね・・・

アイル）・・い・・・・・た・・・

バチ）え？ 何て・・・

アイル）会いたかつたよおおおッ！・・・

俺はバチカンの腕の中で泣いた

ただただ泣いていた・・・

バチカンは・・親友は・・・

そんな俺をずっと・・ずっと抱き締めていてくれた

そんな俺達を周りの皆は不思議そうに眺めていたのだった・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9116y/>

---

アイルランドの学へタ日記

2011年12月16日19時53分発行